



県民の生命と財産を守り、日常

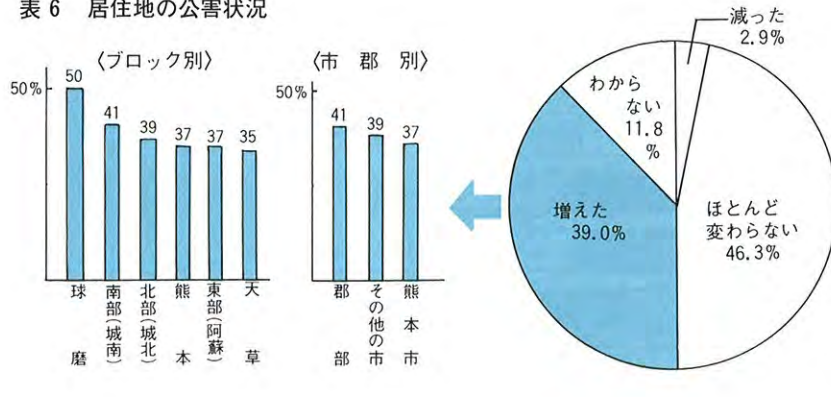
増えてきた公害「水質の汚濁」

### 安心できる生活の確保

「公営の分譲住宅の増設」(二二%)があげられました。これを市郡別にみると、「マイホーム建設のための資金対策」への要望は郡部ほど強く、「公営の賃貸、分譲住宅の増設」への要望は都市部ほど強くなっています。(表一五)

住宅としては「木造一戸建」を選好する人が八〇%と圧倒的に多く、「木造以外の二戸建」(一一%)と合わせれば九一%の人が一戸建を選好しています。

表6 居住地の公害状況



生活の安全性を確保することは、快適な地域づくりを進めるうえでの基本的な課題ですが、公害対策もその一つです。

そこで居住地周辺の公害状況を聞いたところ、最近公害が「増えた」という人が三九%、「ほとんど

企業誘致には半数が賛成就職したい(させたい)地域は「県内」が八割

### 二次・三次産業の振興と雇用の拡大

### 豊かな生活を支える産業の振興

変わらない」という人は四六%となっています。「増えた」という回答は、地域ブロック別にみると球磨が一番多く、市郡別では郡部に多くみられました。(表一六)

増えてきた公害としては、「水質の汚濁」が五七%で最も多く、次いで「騒音」(二三%)でした。「水質の汚濁」をあげる回答は、その他の市(六三%)と郡部(六一%)に多くみられ、また「騒音」は熊本市(四〇%)で多くみられ、都市部と周辺部での公害状況に差がみられました。

今後とも、活力ある豊かな地域社会の建設をはかるため、産業の振興と雇用の拡大をはかっていかなければなりません。その施策の一つとして企業誘致の是非について聞いたところ、賛成層が五五%、反対層が一七%でした。しかし、誘致する場所や企業の種類を特定しなかったためか、「わからない」とする人も二八%と多く、誘致する場所や企業の種類によっては賛否の割合が変わることも予想されます。

なお、賛成層を地域別にみると球磨ブロックが六七%と特に高く、次いで東部(阿蘇)、南部(城南)、熊本ブロックが五八~五六%と続いています。性別では圧倒的に男

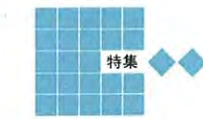


近年優良企業の進出が相次ぎ熊本の経済界その他もさらに活気をおびてきた。(写真は進出企業の調印式)

### 参加と連帯による地域社会の形成

六八%が地域の会やサークルに参加

住みよい地域社会を形成するには、豊かな自然が保護され、安全で快適な生活環境が整備されるとともに、人々の連帯意識による心

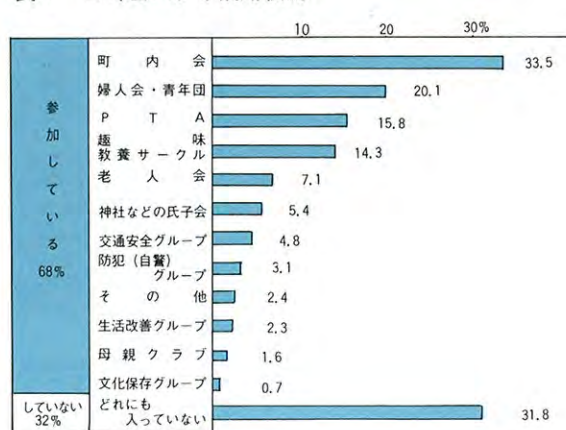


### 心ふれあう快適な地域づくりの推進



女性のコミュニティ活動は、増々さかんになってきている。

表4 コミュニティ活動状況



のふれあいがなければなりません。そのためには、住民一人ひとりが地域社会の構成員としての自覚をもって、自発的に行動し地域づくりをしていくことが必要です。

まずコミュニティ活動で、地域のさまざまな会やサークルへの参加状況を見ると、全体の六八%が参加しており、男性(六六%)よりも女性(七一%)、さらに年代があがるにつれて参加率も高いという結果が出ました。(表一四)

表5 住宅行政への要望

	公営の賃貸住宅の増設	公営の分譲住宅の増設	マイホーム建設のための資金対策	わからない
(市郡別)	19.6%	12.0%	46.7%	21.7%
熊本市	30	17	41	13
その他の市	17	13	48	22
郡部	15	9	50	26

住まい、についての考え方も変わりつつあり、住環境の整備についての要望も多様化してきた。



### 都市と農山漁村の調和のある発展

また、会やサークルの集会の場所としては、「公民館」(六二%)が最も多く、次いで「学校」(二五%)、「集会所」(二三%)、「個人の家」(二二%)がほぼ同率で利用されていますが、公民館の利用については、昭和五十五年の調査より一〇%も増加しており注目されま

都市と農山漁村の調和ある発展のために、地域の中心都市と農山漁村とを一体として、総合的な居住環境の整備をはかっていきます。そこで県の住宅行政を推進する上で要望されていることでは、「マイホーム建設のための資金対策」が四七%と半数近くに及び、次いで「公営賃貸住宅の増設」(二〇%)、

住宅行政に望むもの：「マイホーム建設のための資金対策」(四七%)